

行動の予測は可能か

鶴本 明久

(鶴見大学歯学部予防歯科学講座 教授)

深井 編集長殿

今年も論文を送ることができませんでした。申し訳ありません。Health Science and Health Careをimpact factorが付くようなjournalにしようと意気込んでおられる編集長に協力できないことを深く反省しております。

内容はともあれ昨年、先生や広島の河村先生達と一緒に行動科学のシンポジウムを開催できたことは、それなりの成果だと思っています。しかし「行動科学」に関するイベントを行うといつもすっきりしないものが残るのはなぜでしょうか？私は、行動科学の目的の一つは行動の予測方程式を作ることだと思っています。ただそこに大きなパラドックスが存在していることがこの虚無感の原因ではないかと思っています。

『予測ビジネスで儲かる人々 (William, A. Sheiden, ダイヤモンド社)』という刺激的な本がありまして、それは『すべての予測は予測はずれに終わる』ということをかオスや複雑系の理論などを使ってすどく論じているもので、我々が比較的信頼を持っている天気予報や株価予測の商売が、いかに詐欺的なビッグビジネスであるかを指摘しています。天気予報や環境予測などは、まだ自然科学的法則が関与するのである程度の予測精度を期待できますが、人の行動を規定する自然法則はないので経済予測にいたっては極めて困難であるということです。テレビに登場する顔が3ヶ月ごとに変わる、ほとんど占いに近い経済アナリストの発言が証明しています。

さて我々が対処しようとしている「健康」はどうか。「健康」は自然法則によって規定される身体の要素と社会・経済的法則に規定される行動の要素によって成り立っています。したがって人々の「健康づくり」に貢献すると言うことは、今年の夏の高温を予測し(自然法則)、トマトの株を買い占め(経済法則)、トマトケチャップで大儲けする(結果予測)ことと同じぐらい不確実で、難しいことかもしれません。

しかし、予測は不可能であるといっても、時には「星占い」なども使うかもしれませんが、我々の次に進める行動のほとんどは、「予測」によって決定されることも事実です。つまり人は予測せずにはいられないということでしょうか。このパラドックスを承知の上で人の行動に関する予測関数を考えているのが「行動科学」かもしれません。これは「行動科学」に対する否定的見解ではありません。むしろ、「行動科学」のダイナミズムと魅力だと思えるようになりました。Health Scienceも同じ位相上にあるように思います。

イラクの問題がどのような方向に進み、日本をそして日本人の健康問題をどのように変えようとしているのか「予測」困難です。題名は忘れましたが、井上陽水の「ニュース23」のエンディングテーマそのものですね。

とってつけたような結語ですが、今後のご発展をお祈り申し上げます。

平成16年2月8日